

2-2			
主題	逆デイサービスを利用している認知症利用者の変化と効果		
副題	民家で昔の生活を思い出して		
キーワード1	逆デイサービス	キーワード2	なし
		研究(実践)期間	10ヶ月
法人名	社会福祉法人 賛育会		
事業所名	特別養護老人ホーム 第二清風園		
発表者(職種)	二瀬えり(介護職員)、松浦未来(介護職員)		
共同研究(実践)者	小山範之、(介護職員)、新井亜佐子(介護職員)		
電話	042(736)6906	FAX	042(736)6903
今回発表の事業所やサービスの紹介	開設は平成9年4月、町田市薬師台にある複合型施設。特養100床、ショート30床、デイサービス50名定員、認知症デイ12名定員、居宅介護支援事業所かわせみ、野津田あんしん相談室、高齢者支援センター、東京シニア円滑入居者賃貸住宅を併設している。近所には同一法人施設がある。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

第二清風園では、季節ごとの行事やフロア内でのレクリエーション活動を行い、利用者が施設での生活を楽しんで頂けるよう、計画実施している。

しかし、利用者から、「家に帰りたい。」「子供が待っている。」「ご飯の準備をしないと。」等、帰宅願望が多く聞かれる中、安心して楽しみを持って外出行事が行える場所が課題であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

昨年、一軒家の民家で行っている系列施設で高齢者のための相談窓口「野津田あんしん相談室」が開業され、室内で施設職員のいる場所であれば、利用者に安心して外出を楽しんで頂けるのではないかと考えた。

施設で生活をしている特別養護老人ホームの利用者に懐かしさと家のぬくもりを感じて頂きながら、料理や回想法を行い、笑顔や発

語を生み出せるのではないかと考えた。また、施設生活の中でも余暇活動の充実を図り、回想法を取り入れ、継続性のある行事・取り組みとして逆デイサービスチームを発足させた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

介護課全体の取り組みとして、逆デイサービスチームを発足。メンバーは、介護課主任、介護員4名。

月に1回会議を行い、外出計画を立て実施し、計6回の逆デイを開催した。まず、職員のみで「野津田安心相談室」へ行き、利用者があんしんして過ごせる環境であるか確認した。対象利用者に室内での歩行が可能で認知症のある方を選定し、利用者1名に対し職員1名で実施した。

第1回目、お茶とお菓子を持参し、絵合わせゲームを行った。

第2回目、初めての料理でお汁粉作りを行

った。回想法の映像を見て頂いたり、季節遊びの福笑いを行った。

第3回目、ドラ焼き作りを行った。

第4回目、スーパーに買い物へ行き、調理器具や食べたいお菓子を利用者に選んで頂いた。「野津田あんしん相談室」にてお菓子を召し上がられながら、次回逆デイ実施時、どのような料理作りをしたいか利用者と共に考えた。

第5回目、カレー作りを実施。スーパーにて利用者に好きな食材を選んで頂いた。包丁を使用し、野菜をご自分なりの大きさに切って頂いた。完成後は、利用者、職員と一緒に食事をし、笑顔で召し上がられる様子見られた。また、逆デイサービス実施時は毎回、より自宅に近い環境を思い出し、懐かしさやぬくもりを感じて頂けるよう、写真や絵を使用して回想法を行った。

第6回目、利用者とお茶を飲んだり、お菓子を食べながらゆっくりとした時間を過ごして頂いた。

《4. 取り組みの結果》

参加利用者のY様は、施設生活の中で笑顔や発語が少なかったが、逆デイサービス実施している際は、笑顔が見られ、発言される様子も見られた。また、以前は、人と関わることを避け、自ら居室から出る事がなかったが、施設生活でもフロアに出ておやつを召し上がるようになった。

T様について、以前は、不安な申し出が強く聞かれる事があったが、毎回逆デイサービスに参加することができ、逆デイサービスの事を忘れず楽しみにされている様子があり、不安感も見られなくなった。

料理人だったM様はスーパーで慣れた様子で食材を選び地域の方ともふれあう様子が見られた。また、包丁を使用されると、いきいきと料理人だった頃の話をして下さる様子が見られた。

《5. 考察、まとめ》

自宅に近い環境で、ゆっくりとした時間を過ごす事で、懐かしさや家のぬくもりを感じることが出来る。施設にいても、「家に帰りたい」と思われている利用者にとって安心できる場所に繋がると考える。また、個別外出をすることで、利用者の気持ちやご希望を引き出すきっかけとなり、日常生活の向上に繋がると考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

・昭和日常博物館HP

閲覧日：2015.10.27

<http://www.city.kitanagoya.lg.jp/rekimin/guide.html>

・北名古屋市の回想法HP

閲覧日：2015.10.27

<http://www.city.kitanagoya.lg.jp/fukushi/3000067.php>

《8. 提案と発信》

日々の業務の中で、個別外出の難しさはあるが、施設内でも、回想法に繋がるような個別ケアを行うことが大切である。職員間で個別ケアに対する考えや意見を出し合う場が必要であると考え。